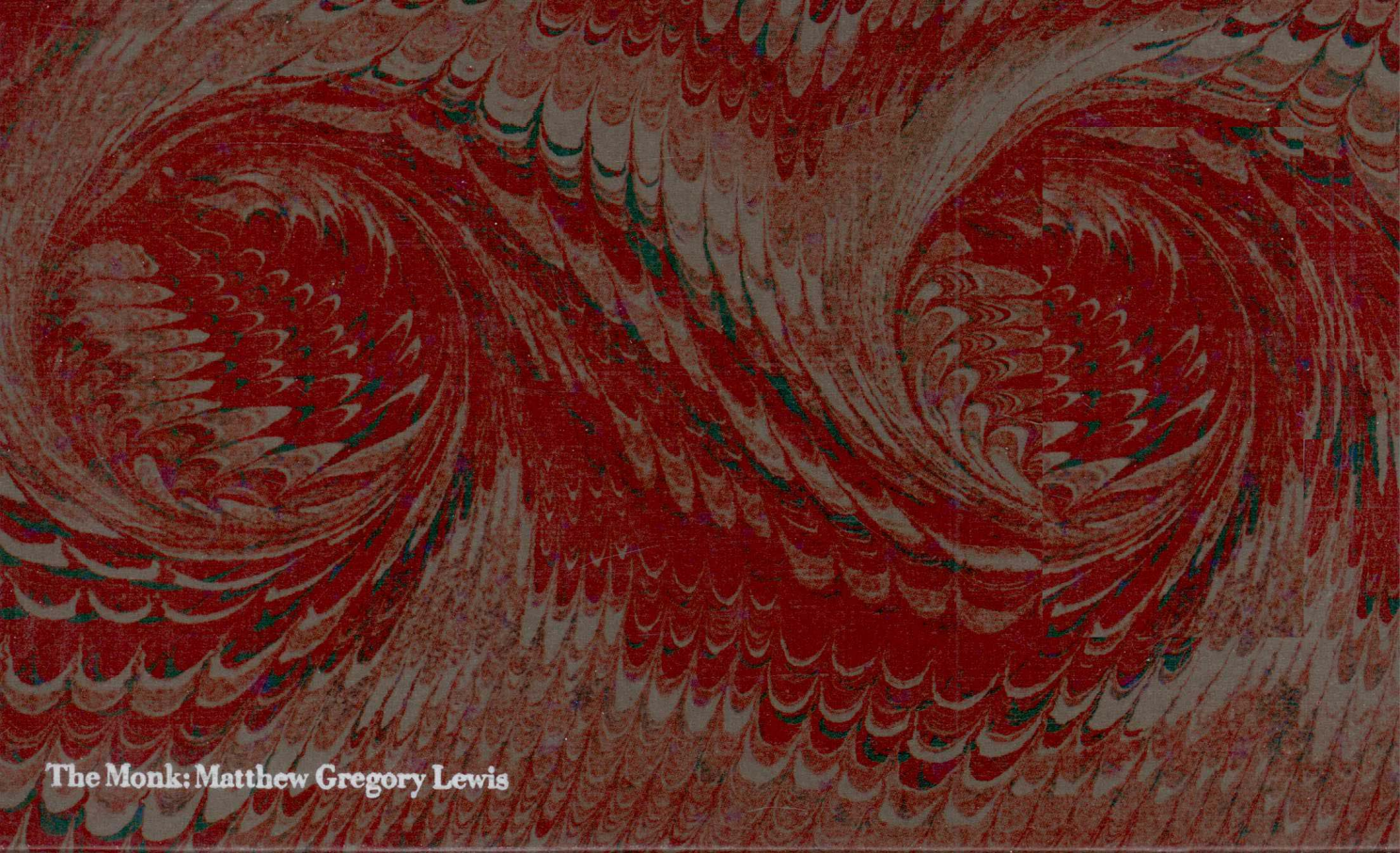


The Monk: Matthew Gregory Lewis

紀田順一郎 荒俣宏 責任編集

世界幻想文学大系 2 B

M・G・ルイス

K: Matthew Gregory Lewis

下井上一夫 訳

国書刊行会

50018409

世界幻想文学大系　責任編集―紀田順一郎＋荒俣宏
第二巻B

マンク――下

昭和五一年四月一日印刷　昭和五一年四月一五日初版第一刷発行　昭和六一年八月一五日初版第三刷発行

著者――マシュー・グレゴリー・ルイス

訳者――井上一夫

発行者――佐藤今朝夫　発行所――株式会社国書刊行会

東京都豊島区巣鴨三―五―一八　郵便番号一七〇　電話〇三―九一七―八二八七　振替東京五―六五二〇九

造本――杉浦康平＋鈴木一誌

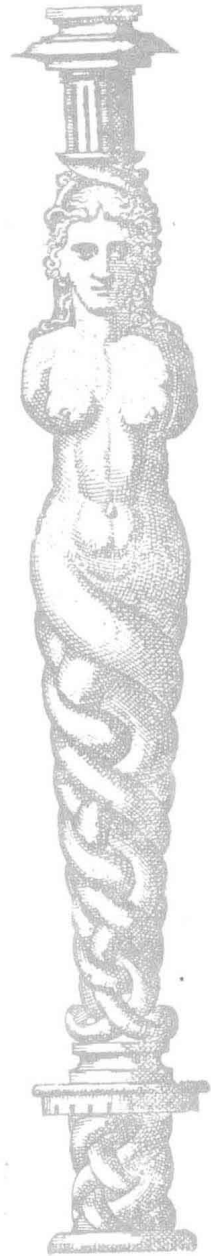
印刷――セイユウ写真印刷株式会社＋明和印刷株式会社　製本――大口製本印刷株式会社

定価――二、〇〇〇円

●落丁本・乱丁本はおとりかえします

井上一夫　いのうえかずお
一九二三年、東京生れ。
慶応大学文学部卒。現在、
日本翻訳家協会理事。
専攻　哲学。
主要訳書――
『アメリカほら話』（編・訳）
筑摩書房、一九六二年。
ハインライン『異星の客』
東京創元社、一九六九年。
他多数。

世界幻想文学大系——第二巻B

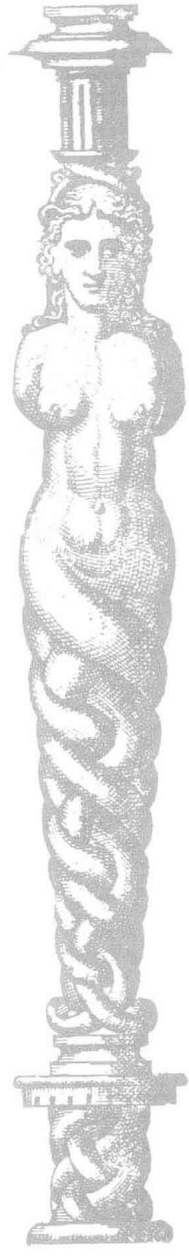


试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo

マンク——下

マシュー・グレゴリー・ルイス——井上一夫＝訳

目次



7——マンク——下　マシュー・グレゴリー・ルイス

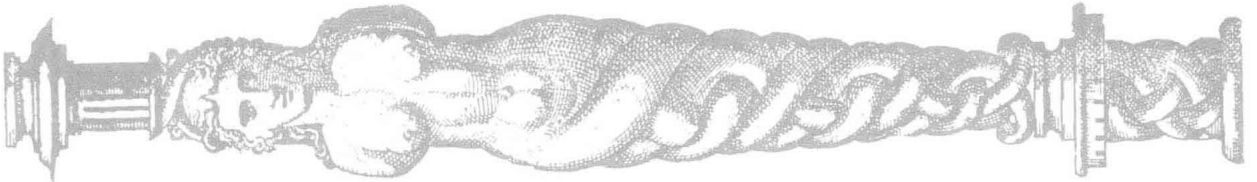
9——第二巻

第一巻、第二巻・第一、二章は上巻

10——第三章

56——第四章

89——第三巻
90——第一章
128——第二章
182——第三章
222——第四章
278——第五章
306——異文
316——M・G・ルイス ジャマイカへの道——富山太佳夫



Somnia, terrores magicos, miracula, fagas,
Nocturnos lemures, portentaque.——Horat.

Dreams, magic terrors, spells of mighty power,
Witches, and ghosts who rove at midnight hour.

最夜中のときにうごめく夢よ、魔法の恐怖よ、
恐ろしき力の呪縛よ、魔女と幽霊よ。——ホラティウス

マンク

ロマンス——下

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo

第二卷

第三章

たがいに抱きあって横たわり、
ふたりは夜を祝福し、
明日を呪った。
――リー

火のような恍惚の時がすぎた。アンブロシオの欲情は満たされていた。快楽が消えて胸の底に恥ずかしさが座をしめる。自分の弱さに当惑し、おびえて、彼はマチルダの腕から身を引いた。破戒が目の前にのしかかるように浮かぶ。アンブロシオは、いま自分が演じたばかりの光景を思い浮かべて、これが明かるみにでたときのことを思い、ぞっとする。恐怖が前途にせまってくるような気がする。心はがっくりと沈んで、うんざりとした嫌悪が巣くう。彼はその破戒の相手から目をそらした。憂鬱な沈黙。その間も、二人は不快な追憶にふけっているようだった。

先に口を開いたのはマチルダだった。彼女はやさしくアンブロシオの手をとり、火のような唇をおしつけた。

「アンブロシオ！」やわらかいふるえ声でつぶやいた。

僧院長は声に驚いて、マチルダのほうに目を向けた。その目は涙がいっぱいだった。訴えるようにアンブロシオのあわれみを請うている。

「危険な女め！　何という惨めな谷底に私をつき落としてくれたのだ！　おまえが女だということが明かるみに出たら、私の名声は――いや、私の命まで、このつかの間の快楽のために捨てなければならなくなる。私はばかだった！　おまえの誘惑から身を守れるなどとうぬぼれるとは！　これからどうしたらいいのだ？　私の罪はどうやったらつぐなえるのだ？　どんなつぐないをしたら、この罪の許しをあがなえるのだ？　マチルダ、おまえのようなつまらん女が、私の平和を永遠に破壊してしまったのだぞ！」

「アンブロシオ、その非難を私に向けるのですか？　あなたのために、浮き世の喜びも、富のはなやかさも、美しく飾りたい女心も、友も将来も名も捨ててしまったこの私を？　あなたは、私のもっていたそういうものの何を犠牲にしました？　私がこの罪をあなただけに負わせるとお思いでしょうか？　喜びを味わったのは、私だけだったでしょうか？　罪と私はいいましたわね？　あやまった世間の考え方で見るのでなければ、私たちのしたどこに罪があるというんです？　そんな世間には、知らせなければいいんです。そうすれば、私たちの喜びは、天から授かった罪のないものになりますわ。独身の誓いなんて、自然にそむくものです。人間はそういうふうに作られてはいません。もし愛することが罪だったら、神様が愛をこうも甘美な、さからいがたいものにお作りになるわけがありません。だからアンブロシオ、その眉根の雲をはらいのけてください。これがなければ人生など意味もない、この快楽にもっと自由にふけりましょう。法悦のような喜びを教えてあげた私を責めるのをやめて、あなたをお慕いするこの女と同じ歓喜を味わって！」

そういいながら、彼女の目は甘美な思いにうっとりと沈み、その胸ははずんでいるのだった。両腕をそそるようにアンブロシオのからだにかけ、ぐっと引きよせると、唇を彼の唇に押しつける。アンブロシオはまた欲情に燃えた。さいは投げられた。誓いはすでに破られたのだ。どうせ罪はおかしてしまったのだ。なぜ、罪の獲物を味わうのを、ためらわなければならないのか？　アンブロシオは、前よりも激しい熱っぽさで彼女を胸に抱きしめた。もはや恥ずかしさにおさえられることもなく、野放図もない欲情を野ばなしにしてしまった。美しい淫婦が、男を得た歓喜の極をさらに高めようと、欲情の思いつきのあらゆることをやってのけ、快楽の手管のたくみをきわめれば、男の歓喜もさらにはげしさをますのだった。アンブロシオは、それまで知らなかった快楽に、われを忘れてふけるのだった。夜は早くもすぎ、夜明けの光はまだマチルダの腕のなかにしっかりと抱かれているアンブロシオの姿を照らしだした。

快楽に酔ったようになって、修道僧はふくよかな魔女の床から起き上がった。彼は自分の淫乱をもう恥ずかしいとは思わなかったし、天にそむいた罰を恐れもしなかった。彼のただ一つの不安は、死がこの快楽を彼の手から奪ってしまうのではないかということだけだった。長い禁欲生活は、彼の快楽への欲情をますますはげしく鋭いものにしただけなのだった。マチルダはまだ毒の効きめをうけていた。破戒僧は、自分の命を助けてくれたからというよりも、道ならぬ妻としてこの女の命を心配しているのだった。この女を失ったら、こんなに安全に、こんなに思う存分自分の欲情を満たしてもらえる女は、容易に見つけることはできない。そ

こで彼は、マチルダが自分でできるといっていた生きのびる道を使うように、熱心にかきくどいた。
「ええ」マチルダは答えた。「あなたが人生は尊いものと思わせてくれたから、私は何としてでも自分を救います。どんな危険だって平気です。私は大胆に自分の行ないの結果を見守って、どんなことになっても、恐怖におののいたりはしません。私がどんな犠牲をはらっても、あなたを手にいれたつぐないができるとも思いません。この世であなたの腕にだかれた一瞬が、来世では罰の一年以上にも当たるんです。でも、そうなる前にアンブロシオ、私が生きのびる手段については決して何もたずねないと、はっきり約束してください」
アンブロシオは、とびきりのおごそかな態度で誓った。
「ありがとう。そうしておかなければならないんです。あなたは自分でも気がついてませんが、やっぱりひどい偏見に左右されているからです。今夜私がやることは、奇妙さからいってあなたはびっくりなさるでしょうし、私を軽蔑するようになるかもしれません。庭の西側のくぐり戸の鍵をお持ちかどうか、教えてください」
「うちの修道院と聖クラレ尼僧院の共同墓地にゆく戸口だね？　持ってはいないが、すぐに手にはいるよ」
「それだけ手にいれてください。私を真夜中に墓地にいれてください。私が聖クラレの墓穴におりてゆく間、せんさく好きな目が私のすることを見たりしないように、気をつけてください。一時間、私をそこにほっといてくだされば、あなたに喜びをさしあげ

るこのからだの命は無事に生きのびます。疑われてはいけませんから、昼間は私のところへはこないでください。鍵を忘れないで、それから私は十二時前にいって待ってます。あっ！　だれかこっちにくる足音が聞こえます！　早くいらして！　私は眠ってるふりをします」

アンブロシオは言われたとおり部屋を出る。ドアをあけると、パブロス神父が顔を見せた。

「若い病人の容体を見にきました」

「しーっ！」アンブロシオは口に指を当てて言った。「静かに。いま見てきたとこだが、よく眠っている。きっと眠りが役にたつだろう。休みたいといっているから、いまはそっとしておいたほうがいい」

パブロス神父は言われたとおりに遠慮した。鐘が鳴るのが聞こえたので、彼も僧院長といっしょに、朝の礼拝にゆく。礼拝堂にはいったとき、アンブロシオは当惑を感じた。罪をおかしたのは彼ははじめてだったし、みんなの目が彼の顔から前夜の歓喜の色を読みとることができるのではないかという気がするのだった。彼は熱心に祈ろうとしたが、もはや神への情熱で胸は燃えない。彼の心はいつの間にか、マチルダのひそかな魅力にとんでいってしまうのだった。しかし、心中の純粋さの不足を、うわべのもっともらしさでおぎなった。罪をかくすもっとよい手として、彼は有徳らしいうわべをさらに強くよそおい、誓いを破ったために、これまでにないほどさらに熱心に天に身を捧げたようなふりをするのだった。こうして自分でも気づかぬうちに、誓いを破り姦淫を

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo